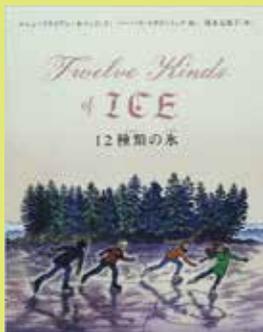


【緑地を楽しむ本】

『12種類の氷』

エレン・ブライアン・オベッド 文
バーバラ・マクリントック 絵 福本友美子 訳
ほるぷ社



先日、栃木にいた時、何十年に一度の寒波襲来で、外に置いていたバケツの水が朝起きるとカチコチにこおっていました。

スケート好きのおんなの子が、野外のスケートリンクができあがるワクワク感とともに、12種類の氷ができてゆく冬の到来を語る本です。

納屋においてある、ひつじ用のバケツにできた「初氷」から始まって、手で持てるほどになった「つぎの氷」。でも、落とすとこなごなに割れてしまう。「3番目の氷」は、やはりバケツの中にできたものだけど、ちょっとやそつとじゃ割れなくなつて・・だんだん畑がこおって、小川がこおって、池

がこおって、牧場がこおって。

スケートで畑をすべったり、小川をさかのぼっていったり・・そんなことができるのかと驚きました。

そして、家の前に家族総出でリンクを作り、近所の子どもたちと役割分担をして、アイスショーも企画します。

春の訪れとともに氷は少しずつ融けはじめ「おしまい氷」。でも、これが12種類最後の氷ではありませんよ。それは読んでのお楽しみにお楽しみしましょう。

(遠藤)